

自己評価の結果について

令和 2年度

(公表シート 様式 4)

学校法人旭川カトリック学園 留萌聖園幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、他者に対する思いやりと自己犠牲の精神を育む。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し、思考する過程を大切に教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、園児と教師の間の信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・当園の教育の柱となっているキリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育（特に「いのちの尊厳」）が、子ども達の心に深く根付くために、引き続き、より伝わりやすい工夫を検討しながら進めて行く。
- ・特別な支援を必要とする子どもだけでなく、全ての子ども達に目が行き届く様、より良い環境の整備と、必要な人材の確保に努める。
- ・『幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿』の共通理解を深め、計画的に教育活動の質の向上を図って行く。
- ・引き続き、安全な保育環境の整備と事故・ケガの防止に努める。
- ・運動機能の個人差（体力の低下や筋力・体幹の弱さ）が目につく場面が多くなって来ている事から、体育指導講師のアドバイスを受けながら、積極的に『体力作り』に取り組んで行く。
- ・恵まれた自然環境を生かした活動を、出来るだけ多く取り入れて行く。また、『いのちの尊さ』を伝える体験型保育も、内容を吟味しながら継続して行っていく。
- ・行事内容の見直し、準備や練習を効率よく行うための工夫に力を入れて行く。
- ・保育者の専門性を習得できる機会を増やし、園全体の保育の質の向上を目指す。また保育者間の連携強化、情報共有の徹底に努める。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	今年度は新型コロナの影響で、春の段階で年間行事予定の大幅な見直しがあり、自粛による約 2 ヶ月間の休園期間の取り組みや2学期以降の行事をどう組み込んでいくか等、懸案事項が山積の状況でのスタートになった。その中で子どもたちの成長のために本当に必要なもの、別の形で実施できるもの、今年度は見送ることもやむを得ないものの3点を軸に、状況を見ながら判断し、準備を行ってきた。そのような状況の中で、新たなアイデアがどんどん出てきた事、今までの形(在り方)から離れて見ることでより良いもの(内容)が実施できた部分もあり、園全体の取り組みや保育計画、取り組み方を見直す良い機会にもなったと感じている。また、保育者一人一人が、様々な状況変化による予期せぬ変更等にも、臨機応変に対応出来る力がついたと思われる。課題となっていた担任と補助教諭の連携に関しては、補助教諭の積極的な関りや指導も見られるようになり、若い保育者の育成に繋がっている。しかしながら、日々の保育を進める上で、情報伝達が不十分であるとの指摘や、保育のねらいや達成目標などがきちんと伝わっていない部分もあったため、改善、徹底していく。
2 保育の在り方、幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	今年度は感染予防を重点に、保育環境の見直しや整備に更に力を入れることが出来た。コロナはもとより、それ以外の感染症、幼児期に罹りやすい疾病、風邪などの罹患や欠席が例年になく少なかった事からも、感染予防の効

	<p>果があったと思われる。幼児への対応、理解に関しては、多様化する子どもたちの特性に対し、多くの保育者がその難しさを感じているところである。学びの時間を持つことが難しい中で、お互いに相談し合い、各機関のアドバイスを得ながら進めている。一人一人の子どもの声に出来る限り耳を傾け、興味関心を引き出し、保育に取り入れる事が出来る様、今後も継続して取り組んでいく。子育て支援においては、預かり保育の利用者が年々増加しており、1クラスの園児数よりもはるかに多い日がほとんどのため、預かり保育の環境の見直し等を行ってきた。特に密の回避のためホールでの活動時間を中心に、長期休み期間の午睡のための衛生用品の購入(簡易ベッド)等、今後も環境の充実を図っていく。また、園児の安全を守るための人員の強化(担当者の増員)も今後の課題として検討していく。</p>
<p>3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。</p>	<p>今年度は新任の保育者の採用があり、保育の経験不足を補うために、補助教諭が役割をしっかりと果たすことで保育を進めていくことが出来たと感じる。また、職員みんなが常に園全体のことを考えて情報を共有し合うことに力を入れてきた。ただ、一部でまだ十分ではないと感じている保育者もいることから、今後は徹底した情報共有を目指していく。キャリアアップ、保育者の資質向上のための自己の学びに関しては、今年度は個人的にリモート研修への参加や、免許更新講習の取り組みが見られたものの、多くの保育者が足りていないと自覚していることから、今後もまだリモート等での研修が続くであろうと予測されるが、積極的に参加できるような情報提供や体制を作っていく必要があると思われる。</p>
<p>4 保護者への対応及び家庭との連携 園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<p>保護者からのクレーム、苦情等、ここ数年は以前に比べほぼ無くなってきていること、また行事後のアンケート回答結果からも、保護者の園への信頼、また保育への理解がある程度得られているものと思われる。園での子どもたちの様子を、出来るだけわかりやすく、迅速に伝えるための、聖園ブログでの写真の提供は、保護者からも好評であることから、今後も継続していく。保育の内容を伝えるためのクラスだよりは、保護者が参加していない行事等を中心に報告しているが、日ごろの(行事日以外の)保育の様子をもっと知りたい、発行の期間をもう少し短くできないか…等のご意見も少数ながら上がっていることから、今後検討していきたいと思う。ただ、それらの作業が増えることで職員の負担が大きくなり、保育の準備等に支障が出ないように慎重に対応していく。今年度のコロナ休園期間には、緊急メール配信での連絡の徹底、聖園ブログでの動画配信など有効に活用できていたと感じている。ただ少数ではあるが、まだ一部の保護者がメールに気づかずに、園から電話確認しなければならない状況も依然としてあることから、改善していきたい。</p>
<p>5 地域社会との連携 地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<p>今年はすべての企画がコロナの影響を受け、畜産農家との交流、高齢者施設訪問等は実施できなかった。これらの交流は子どもたちも、また迎えてくださる方も大変楽しみにしている行事であるため、今後も状況を見ながら実施の方向で計画していく。ただ地域社会との関わりと言っても、どこかを訪問すること以外に、なかなか「園の周りで…」地域の方と出会う機会もないのが現状である。子どもたちのコミュニケーション力を養う、また人との関わりの中から学ぶもの(知識、技術等)はまだまだたくさんあると思うので、今後はどういう形で関わりを持つことが出来るのかを考えていきたい。小学校訪問は少人数での感染対策の上でご協力いただくことが出来、中止することなく貴重な体験をすることが出来た。ただ、幼小連携の一つとして当園で重要視している「学校給食体験」が、ここ数回、感染予防以外の理由でも中止になっており、「お弁当から給食へ」のスムーズな移行のための機会が全く無くなってしまったことに不安もある。</p>
<p>6 研修と研究 研修・研究を積極的にを行い、専門性を高める努力をする。</p>	<p>研修会への参加は、今年度に関してはコロナの影響でほとんど開催されなかったことにより、参加の機会は少なかったと感じている。リモート研修なども積極的に参加が見られなかったため、今後の課題としていく。公開保育は、自園が受け入れる場合も、また見学する場合も、大変貴重な学びの機会であり、リモートでは出来ない経験でもあることから、今後状況が良くなった時に</p>

	は、特に保育経験の少ない保育者を中心に積極的に参加して行きたい。専門的な技術の習得、向上は、この自粛期間がかえって良い時間となると考えられることから、各自の苦手分野のスキル向上に努めたい。
7 情報公開 保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報の保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努力をする。	園だより・クラスだより、また必要に応じて出されるお知らせで家庭との連絡をはかり、幼稚園の様子などを情報公開する様に取り組んでいる。特に感染症・伝染病等の発生時には、緊急速報として随時状況をお知らせしている。また、昨年度の学校評価の結果や危機管理マニュアルは、学園ホームページで閲覧出来る様になっている。未就園児対象のちびっこ教室は、ここ数年「満3歳児入園」のためのプレ幼稚園的な捉え方をされる傾向にあるが、単なる順番待ちの場ではなく、就園前の年齢の子どもたちが、保護者と一緒という安心感の中で同年齢の子ども達との遊びや関りを楽しみ、徐々に幼稚園(集団生活)に慣れていく事を基本に活動している。当園ではそのような理由から「通年」での計画を立てて行っていることに理解を促し、広く周知をしていきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育の取り組みとして、引き続き宗教指導の司祭による月に一度の「宗教の時間」を実施している。また司祭不在の週には、園長が宗話を行う事で、より一層の教育に力を入れている。司祭による保護者対象のお話し会(月一回)も、保育参観との抱き合わせで引き続き行っているが、その日の保育内容によっては(園外保育で子どもたちの様子が参観できない…等)、残念ながら参加者が少なくなる傾向がある。当園の教育の主軸となる「キリスト教的人間観」を理解していただくのためにも、工夫しながら、参加の呼びかけを行っていく。 ・『幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿』の理解と、保育の中での実践的な取り組みは、出来ているものとそうではないものがあり、まだまだ取り組みとしては十分とは言えないが、一人一人の個性、発達段階、興味関心の把握に努めながら、就学までに無理なく準備が出来るように引き続き保育を展開していく。 ・すべての子どもたちに目が行き届く保育環境の整備は、園舎構造上の問題もあるが、保育者の増員、無駄のない人員配置により強化されてきていると思われる。突発的な事故やケガ、また子ども同士のトラブルによるケガ(叩く、噛む…等)は日常的にいつ起きるか予測できない事なので、今後も職員全員での見守り、事故防止に努めていく。 ・運動機能の強化のための取り組みも、今年は講師が地方から来ている理由から、感染予防のため指導自粛の期間があり、十分とは言えない状況であった。しかしながら、ここ数年での運動指導による保育者の学びもあり、3学期には自分たちでプログラムを考え、運動指導を行った。運動指導はケガにも繋がりがやすい事から、不安に感じ苦手とする保育者も多いが、今後また状況が回復した際には、子どもたちへの運動指導だけでなく、保育者への運動指導や保育者が自ら学ぶ意識をもって取り組んでいく。 ・恵まれた自然環境を生かした活動を今年の大きな目標に据えていたが、対外的なもの以外(遠足など)は、ほぼ例年通り実施できている。今後も園バスを利用して、移動時間を節約しながら、もっといろいろな場所に出かけて行きたい。(体力づくりのためには行った先で存分に体を動かす活動を取り入れる。)留萌市民にも知られていない、素晴らしい自然がまだまだ身近にあることを、子どもたちに体験を通して伝えていく。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
安全管理	引き続き、保護者参加の防災訓練を実施し、保護者にとっても非常時の危機管理や対応を再確認する良い機会になっていることから、今後も継続して行く。また、園児を対象とした予告無しの避難訓練、状況設定をいろいろ変えての避難訓練も引き続き実施していく。職員の救急講習、消防訓練、不審者対応の訓練なども、隔年で実施する。園内外の遊具の点検は学校安全計画に沿って実施がより徹底された事から、遊具の安全管理と誤った使い方による事故やケガの防止にも努めていく。衛生的な環境設定のため、コロナ感染予防とその他の感染症の予防のための取り組みを園内、園バス内で継続していく。送迎バスの事故防止・安全運転の更なる徹底に努める。

<p>特別支援教育</p>	<p>支援を必要とする子ども達が年々増加の傾向にある事から、引き続き特別支援教育の在り方、取り組みに力を入れて行く。支援を必要とする幼児への関わりのみならず、クラス全体・園全体への指導方法を、実践を通して学んで行く。幼児の発達に関わる諸機関との連携の強化、また今年から当園でも開始された、発達支援センターの「保育所等訪問支援事業」などを有効に活用して行きたい。また、小学校へのスムーズな引き継ぎの面で、保護者の理解を得るための話し合いの場を積極的に持つ。子ども達が安心して教育を受けられるための支援と、幼稚園としての役割を果たして行ける様に努める。</p>
<p>園に対する保護者の満足度の把握</p>	<p>本学園の建学の精神に則った独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、カトリック幼稚園に求められている事を確認する事で、本園の方向性を再認識して行く。また、子育て中の保護者が幼稚園に対し、具体的に何を期待しているのか、あるいは子育ての悩みや問題にも向き合い、様々な情報に惑わされる事なく、安心して子どもを通わせることが出来る環境にして行く。職員一人一人が子どもにも保護者にも満足、納得してもらえる保育を心掛けながら、協力して、より良い保育を行って行く。子育て支援に関しては単なる過剰サービスではなく、本当に必要な支援(親にとっても子にとっても)とは何かをよく考え、また『教育機関』としての役割から逸することなく、支援・対応を検討して行く。正しい情報提供と、保護者の不安や不信感を払拭出来る様、積極的に相談の場も作って行きたい。(昨年度に引き続き)</p>

6. 学校関係者の評価

<p>1. 『保育の計画性』に関しては概ね「満足」の回答であった。今年度は新型コロナの感染予防等で、様々な規制や予防対策が必要な中、安心・安全対策を十分に行った上での行事の開催等、子ども達や保護者の気持ちに寄り添った判断の対応に高い評価が得られた。また、休園等で保育日数が少ない、例年実施している活動の一部が実施できない等の状況ではあったが、それらに変わる工夫が随所に見られ、子ども達の成長を十分感じる事が出来た等、園に対する信頼の声も多数上がっている。一方で園以外の施設を使用して行われる行事の場所決めが『園児によるくじ引き』で決定されたが、小さい子どものいる家庭では、場所によっては途中退場が出来ない等の不都合が生じていたとの報告もあり、今後は配慮が必要と思われる。</p> <p>外部の関係者からは、教育目標である『おいのり・親切・がまん・ありがとう』は子ども達にも分かりやすい表現で、キリスト教を基とする幼稚園としてその教えに則った十分な教育が行われている事への評価が上げられた。また、コロナ禍である事も含め、限られた時間の中で、指導計画の見直しや一人ひとりの子どもへのきめ細かい配慮のためのケース会議など、まとまった時間を取りにくい中ではあるが、今後も継続していくためのより一層の工夫が必要であるとの意見を受け、次年度の課題として行く。</p> <p>2. 『保育の在り方及び対応』に関しては概ね「満足」の回答であった。特に今年は、感染予防が難しいとされる幼児を預かる中で、徹底した管理と工夫(マスク着用と替えマスクの徹底、衛生的な環境の設定等)の結果として、普段からも様々な感染症にかかりにくい事が保護者の安心に繋がっていると、高く評価された。また、発達に遅れがあり心配したが、園の対応に不安無く通わせる事が出来た、等の意見もあった。</p> <p>①多様化する幼児の特性は様々であり、保育者の多くがその難しさを感じていると共に、保護者も同様に悩んでいる事を理解し、子どもの声のみならず、保護者の声にも耳を傾けながら、保育環境の充実を探求して欲しい、②より一層きめ細かな個別の指導体制の構築への着手、等、外部関係者からの意見もあった。</p> <p>預かり保育に関しては、異年齢の子ども達と関わり、一緒に遊ぶ良い経験の場となっているとしながらも、長期休み期間の「午睡時間」を短くして欲しいと言う要望も上がっている事から、それぞれの年齢に配慮しながら、あくまでも子どもにとって負担にならない方向で検討して行く。</p> <p>3. 『保育者としての資質』に関しては、「やや満足」から「満足」の回答であった。①担任の他に補助教諭(副担任)が配置されており、子どもの様子なども細かく教えてもらえる事で、安心して通わせる事が出来ている。②園に複数の補助教諭がいる事でしっかりと見てもらっていると感じる事が多く、今後もこの体制を継続して行って欲しい、との評価が多数あった。また、時には行事前の練習などで子どもが弱音を吐いている事もあったが、親が先生を信頼して任せることで、子ども自身大きく成長し、自信に繋がることが出来た、等の評価もあった。</p> <p>一方で外部関係者から、聖園幼稚園の教育の中心となる宗教教育の部分に関して、保育者にもキリスト教への理解やスキルが必要であると思われるが、現状としては難しい部分があるのではないかと指摘があった。月に一回職員のために、主任司祭が聖書やキリストの教え全般についての学びの時間を作ってくれており参加しているが、十</p>

分とは言えない状況と思われる。また、外部研修(リモートも含む)内部研修(園内研修)への参加は、保育者資質向上には不可欠であることから、コロナ禍であっても積極的な取り組みを望む意見もあった。

4. 『保護者への対応』に関しては、「やや満足」から「満足」の回答であった。①ブログは普段見られない保育の様子を見る事が出来、その日のうちに子どもとのコミュニケーションにも繋がる事から、今後も継続して欲しい。(多数支持あり)②ケガ・粗相・お弁当を残した…等、細かい事までお詫びと報告が徹底されていることには大変感謝しているが、良かったこと、出来た事などの小さな報告もしてもらえると、園での子どもの成長の様子を知る事が出来るのでは?(先生によってあったり無かったり…差があると感じる。)などの意見が出された。

また、緊急連絡メールに『気付かない』『サーバーで止まった』などの問題点もあげられていた。問題点を改善しながら、保護者の協力を得たい。天候不良などによる臨時休園の連絡が遅いとの指摘もあり、他機関と連携を取る事で迅速な連絡を目指す。送迎バスに添乗する先生によって、子どもを降ろす前の保護者の確認が徹底されていない時があった、との指摘があった。今後その様な事が無いように指導を徹底していく。

外部関係者からは、「クレームの減少は保護者の園への信頼・理解の表れであると評価する。今後も、意見や要望に対しては、過度な準備や作業が保育に支障を来すことのない様に注視しながら対応して行くことが大切である」、との助言をいただいた。

5. 『地域社会との連携』に関しては、「やや満足」「やや不満足」に評価が分かれたが、これは今年度、コロナ禍による色々な制限のために他機関、他施設、様々な見学活動などが出来なかった事によると思われる。(地域社会との交流の活動がほぼ無かったため、評価困難。)ただ、①今後しばらく、あるいはこの先は、今年度の様な感染対策が「あたり前」となる事を踏まえ、その様な状況の中でも出来る形での『地域社会との連携』や関わり方を工夫して行って欲しい、また、②状況を見ながらではあるが、安全だと判断できる場合には、前向きに検討して欲しいとの意見が出された。小学校へのスムーズな接続の一つとしてあった『学校給食体験』が全く出来ない事への不安の声も多く、何らかの形で給食に近い『体験』が出来る取り組みを、至急検討して行きたい。

6. 『情報公開』に関しては、概ね『やや満足』、少数の『やや不満足』に分かれた。園からの情報として『園のたより』や『お知らせ』に関しては、情報量も十分で、読みやすい等の評価が多かった。しかしながら、1ヵ月分では情報量が多すぎて忘れてしまうため近くなったら再度声掛け等してもらえると助かる、紙媒体だけでなく、出先などでも確認出来るようにホームページやブログへの掲載を希望する等の意見もあった。これらに関しては園での対応の前に、まずは保護者各々が自分で工夫する様に協力を促して行きたい。また、勤務シフトの調整の都合上、予定を早く知りたいという保護者も多くなって来ている。今年は特に年間行事予定の大幅な変更もあったことから尚更と思われる。園のたよりの発行の時期をもう少し早める等、検討して行く。

外部関係者から、園の危機管理マニュアルなどホームページには掲載されているとの事だが、要点を押さえた簡潔な情報・内容のものを作成することで、危機管理への意識も変わるのでは?との助言をいただいた。

7. 『その他』として、①「行事以外にも保育の見学の機会を作って欲しい」との要望があった。月に1回の神父様のお話し会の後、年中・年長組のスポーツセンターでの『体育教室』、お子さんの誕生会の日などは自由に参観出来る事を周知していく。(個別に参観を希望する場合には対応する旨は入園前の説明会で伝えてある。)

②昨年、今年と卒園関係の行事の保護者参加の有無、人数制限等の措置のため、卒園関係の活動や式の様子をDVDで販売する事となっているが、コロナの心配が無くなっても継続して欲しいとの要望が出ている事から、状況が改善した後は保護者役員等と相談して決めて行きたい。

③行事等の中止や、集まりの機会の制限のため、今年度は父母の会の係活動を行わず、必要に応じてお手伝いを募集したが、実際には手伝いの人数も少なく、先生方の負担が大きかったのでは?との声があった。当面(来年度)はこの形で進めて行く事になるため、当日のお手伝いに関してはもう少し協力をお願いして行く。

④昨年度、予告無しでの防災避難・園児引き取り訓練の要望が出たため、今年は一定期間内で予告無しで実施したが、特に混乱もなくスムーズに行えた。園児の避難訓練も予定表に載せないで実施してみてもいいのでは?との意見があったため是非計画したい。

⑤誕生会での保護者へのインタビューが負担である、との声があったが、園としては誕生会という晴れの舞台で、子どもがみんなの前で、親から『〇〇ちゃんのこころが素晴らしい、大好きだよ』と言ってもらえることは、この上ない最高の言葉のプレゼントだと思って続けている。その事をもう少しご理解いただき、今後も継続していきたい。

7. 財務状況

大手監査法人である太陽有限責任監査法人(東京)の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間にも周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。

8. 次年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育（特に「いのちの尊厳」）が、子ども達の心に深く根付くために、引き続き、より伝わりやすい工夫を検討しながら進めて行く。
- ・特別な支援を必要とする子どもだけではなく、全ての子ども達に目が行き届く様、より良い環境の整備と、必要な人材の確保に努める。
- ・『幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿』の共通理解を深め、小学校へのスムーズな接続と、計画的な教育活動の質の向上を図って行く。
- ・引き続き、安全な保育環境の整備と事故・ケガの防止に努める。
- ・運動機能の個人差（体力の低下や筋力・体幹の弱さ）が目につく場面が多くなって来ている事から、体育指導者のアドバイスを受けながら、積極的に「体作り」に取り組んで行く。
- ・子ども達が地域社会の一員である事を分かりやすく伝える。難しい状況下ではあるが出来る範囲で、地域社会で生活する人々、働く人々を知る機会を設け関わる活動をして行く。また、「留萌」の良さを子ども達に伝え、体験を通して感じる機会を積極的に作っていく。
- ・「いのちの尊さ」を伝える体験型保育や、音楽鑑賞会などの情操教育の機会も内容を吟味しながら継続して行っていく。
- ・コロナ禍の経験を活かし、行事内容の見直し、準備や練習を効率よく行うための工夫に力を入れて行く。
- ・保育者の専門性を習得できる機会を増やし、園全体の保育の質の向上をめざす。また、保育者間の連携強化、情報共有の徹底に努める。